知ってましたか？

天竜びとが語り継ぐ歴史
天竜川にまつわるこんなお話

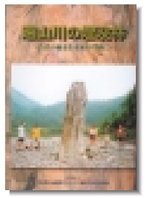
「平成18年7月豪雨」では甚大な被害を受けましたが、
普段は穏やかに流れ、私たちの生活を潤している天竜川。
いにしえより流れ続けるその歴史とともに、知られざる天竜川の姿を
“天竜びと”に聞いてみました。

天竜びとが語る「埋没林」

天竜川周辺には不思議がいっぱい。歩いていると発見がありますよ。

研究の成果や資料を南信濃自治振興センターに提供し、災害の恐ろしさや自然のすごさを地域の人に伝えたい、と願う寺岡さん。埋もれ木を天然記念物に指定してほしいと熱っぽく語っていたのが印象的でした。

●伊那谷自然友の会会員
寺岡 義治（てらおか よしじ）さん（飯田市在住）



寺岡さんも執筆した冊子「遠山川の埋没林」。大きな埋没林が目を引きます。飯田市美術博物館で販売中。

史学会報誌など、他にも多くの執筆をされています。

過去の災害などで土砂や水に立木のまま飲み込まれてしまった木々のことを埋没林って呼ぶんです。

県内では上高地の大正池の中にある立木が有名ですが、この天竜川支流の遠山川でも近年、河床低下の影響で埋没林が現れてきたんです。土の中に埋まっていた部分はきれいな川の水に浸っていたおかげもあり保存状態が大変良く、木の一番外側にある形成層までしっかり残っていました。

発見された木の年代を調べるため、年輪を調べて樹木の年代を測定する年輪年代測定法の日本における第一人者、光谷拓実先生の協力をいただき、この木が埋没し生命活動を停止したのは西暦714年であったことが明らかになりました。これは奈良時代の歴史書「続日本紀（しょくにほんぎ）」で715年、平安末期の歴史書「扶桑略記（ふそうりゃっき）」では714年に起こったとされる遠江（現在の静岡県西部）の大地震の年と一致。史実を裏付けることとなりました。大きな成果に興奮しましたね。

近頃は、地域の人たちと「巨木巡り」や「地震地形の案内」など遠山川を囲む自然を見て回っています。そうやって歩いていると不思議なことや面白いことがたくさん見つかるんですよ。

護岸工事でヒノキの巨木が発掘され、これから試料が採取されました。

埋没したのが714年と断定されたヒノキ材。生きている木と同じくらいの強度があったとか。一つ一つの検証努力が、古文書の記載を史実へと確定させていきます。

天竜びとが語る「理兵衛堤防」

遺構を調べて推理する。昔の技術や人々に思いを馳せるのって面白いですよ。

中川村誌の編纂に携わったほか、現在では遺跡・遺構の発掘や膨大な量の資料整理を行っている伊藤さん。「地域民俗学や考古学を研究しています。理兵衛堤防は昔の暮らしを伝える貴重な遺構。大切にしていきたいですね。」

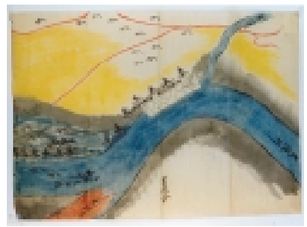
●中川村教育委員会学芸員
伊藤 修（いとう おさむ）さん（飯島町在住）

ここ中川村田島は肥沃で米づくりには魅力的な土地だったんです。でも、数年おきに水害が起き、地域の農民はいつも悩まされてきました。そこで名主であった松村理兵衛忠欣が、自分の土地である外記島（げきじま）と周辺の農地を守るために立ち上がり、1750年から孫の代まで続く堤防工事が始まったのです。

明治以後の度重なる洪水による土砂で遺構の大半は埋まっていたのですが、昭和58年の水害で下流部が表出し、さらに「平成18年7月豪雨」により上流部が現れました。表出した延長部や下層部を掘り起こし、現在では古文書の記録にある内容と現地状況を照合をするなど、事実の解明を進めています。

それにしても当時の技術力には驚きますね。200年も前に作られた堤防の石積みは大きさ・形を考えて組まれていて、簡単には崩れない仕組みになっています。それに堤防の横にある木製の用水路は、釘を使わず組まれていて水漏れもないんです。

最近は、大人も子供も昔に比べ山や川で遊ぶ事が少なくなっているように感じます。理兵衛堤防を通じて自然での遊びの面白さとともに、自然の力の怖さももっと知ってほしいですね。



江戸時代に描かれた天竜川と理兵衛堤防周辺の絵図。鮮やかな色彩が印象的です。（塩尻市松村家所蔵）

理兵衛堤防の脇に設置されていた用水路。途中で石組みから木樋に変わっている理由は未だに謎のまま。歴史のロマンにあふれています。

現在は堤防修繕工事の最中にある理兵衛堤防周辺。石に並びの番号を記載し、写真撮影や測量等の調査が行われたそうです。

天竜びとが語る「用水路」

西天竜用水のおかげで、この地域での稲作が可能になりました。

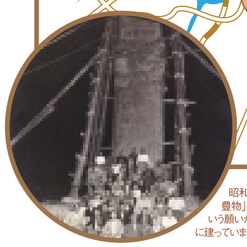
60年近く農業を営む平井さん。最近は安心で安全な米づくりに専心しているそうです。

●上伊那郡西天竜土地改良区理事長
平井 眞一（ひらい しんいち）さん（箕輪町在住）

昔のこの地域は台地状で水に乏しく、桑畑や原野が多かったんです。当時、「お米」が取れるのはかけがえのないことであり、悲願でした。江戸時代から西天竜幹線水路建設の構想はあったものの頓挫。明治33年計画開始、大正11年起工から昭和3年完成まで、30年にせまる歳月を費やし待望の幹線水路が開通しました。現在では岡谷市にある頭首工から始まる総延長26km、灌漑面積は1,180haにも及び、今や田畑を潤すばかりか、伊那谷の豊かな生活も支えているんです。

用水路の要所には「穂坂式」と呼ばれる円筒分水槽が計38基も設置され、その側面にある穴の大きさは水田面積の大小によってそれぞれ違うんですよ。

水は人間にとって必要不可欠なもの。先人達の努力が今の伊那谷を豊かな土地にしています。毎年行う水路等の大そうじに加え、今後は5年がかりで幹線や水路の補修工事を行っていきます。先人たちの作ったものを大切にし、後世に引き継いでいきたいです。



昭和24年に建てられた記念碑。そこには「鍾水豊物」と書かれており、水を集め物を豊かにする、という願いが込められています。今でも当時と同じ場所に建っています。

各地区の水田の末端まで水が平等に行き渡るようにと考案されたもの。今見ても画期的ですね。小学校の社会科見学も多いそうです。平成18年には、日本各地に残る土木建造物の中から「土木遺産」に選奨され、その文化的価値が認められました。

西天竜幹線水路建設当時の記念写真。生活を豊かにしたいという希望にあふれているようですね。

天竜びとが語る「古地図」

同じ水防組合に所属する気さくなお二人。子供の頃は天竜川での水遊びの時にも対岸との綱渡りがあったとか。丸山さんは現在、きのこ栽培も営んでいます。

月日が経つほど変わる地形と薄らぐ過去の記憶。しっかりと後世に伝えていきたい。

●飯田市上郷天竜水防組合 野口 章人（のぐち あきと）さん（飯田市在住）
丸山 博康（まるやま ひろやす）さん（飯田市在住）
※写真左より

旧上郷村（現飯田市上郷地区）には、大正2年に作成され代々受け継がれてきた村の境界線地図があるんです。水防組合で持ち回りをして交替で保管・管理しています。

地図と一緒に保管している記録書によると、1801年には水除けのための大規模な工事が始まっており、その後の明治時代となると頑丈な石堤工事が逐次行われ、地区の耕地を守っていたそうです。江戸時代より天竜川の対岸と上郷地区の耕作地の権利をめぐって揉め事がありましたが、明治33年から13年あまりの歳月を経て村の境界線が確定。地図と覚書が作成され、今に受け継がれています。

代々伝わるこの地図は保存のため、毎年9月に「絵図干し（えずほ）」と呼ばれる行事で、地図を広げて湿気とホコリを払う。そして、地区の人や行政を招いて交流会を行っています。次の代にしっかり語り継いでいかなくちゃいけませんからね。このような地図は今後ますます歴史的価値も高まっていくと思うので、歴史資料館や研究者に預けようかとも考えています。

巨大な境界線地図。今では他に残っていないと思われるとても貴重な資料です。地図には3度も境界線が変更された跡が刻まれています。

現在の堤防が描かれたトレーシングペーパーと地図を重ね合わせると、昔の河川敷と違うことが一目瞭然。昔の川幅は400m、洪水時はなんと1,000mにもなったそうです。

代々受け継がれている地図は、断熱効果・湿度調節効果にすぐれた「桐」の箱に丁重に収められています。

知ってナットク なるほど！天竜川

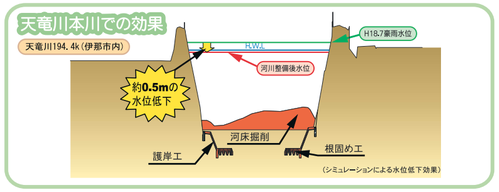
「激特事業」って？

河川激甚災害対策特別緊急事業（略称「激特事業」）とは、大雨による出水で大きな被害が発生した河川において、再度の災害防止を図るため河川工事を重点的に実施する事業をいいます。

「平成18年7月豪雨」では、諏訪湖周辺や天竜川で大きな被害がありました。そこで同じような出水があっても再び被害が起こらないように、諏訪湖周辺と天竜川では、平成18年度から5年間の予定で事業費84億円をかけて「激特事業」を行っています。

具体的には、平成18年7月の出水に加え釜口水門の放流量増加を安全に流すことができるよう、国管理区間の天竜川のうち辰野町から三峰川合流点までの約20km区間では、川底を掘り下げたり（河道掘削）、堤防を築いたり（築堤）、堤防が壊れないようにコンクリートと石で堤防の表面を固めたり（護岸）、川底が掘られないようにコンクリートのブロックを並べたり（根固め）、橋を補強したり（橋梁補強）する工事を行います。

沿川の皆様には、しばらくの間ご不便、ご迷惑をお掛けしますが、ご理解、ご協力下さいますようお願いいたします。



※HWL:計画上流しうる最高水位（「平成18年7月豪雨」は、HWLを超える出水でした。）

1 今号（天竜川通信 vol.13）で面白かった、ためになった記事はどれですか？（複数回答可）

ア 天竜びと（埋没林）　イ 天竜びと（用水路）　ウ 天竜びと（理兵衛堤防）
エ 天竜びと（古地図）　オ 知ってナットク なるほど!天竜川
カ 天上ニュース　キ かわらんべ information

●どんな点が面白かった、又はためになりましたか？

2 あなたの天竜川おすすめスポットを教えてください。

3 あなたの天竜川に関する思い出話を教えてください。